徳島市立 会心のV2

全国高校サッカー 徳島大会 最終日

徳島北を1―0

サッカーの第98回全国高校選手権徳島県大会最終日は9日、徳島市球技場で決勝が行われ、徳島市立が1―0で徳島北に競り勝ち、2年連続18度目の優勝を果たした。徳島市立は全国選手権（12月30日開幕・東京駒沢陸上競技場ほか）に出場する。組み合わせ抽選会は18日に都内で開かれる。

【評】攻め続けた徳島市立が終盤に決勝点を奪った。後半36分、相手陣内で縦パスを受けた野口からのボールを左サイドの佐野が軽く浮かせてクロスを入れると、ニアサイドの中田が頭で合わせた。前半からボールを保持し、両サイドに展開したり、長短の縦パスで守備の裏側を狙ったりして何度も好機を築いた。徳島北はCB野田を軸に東條、吉岡らが体を張って守り、セットプレーから惜しい場面もつくったが最後は体力が消耗した。

▽決勝

徳島市立 1（0-0、1-0）0 徳島北

▽得点者【市】中田

【徳島北】
友平條田岡井
住大東野吉藤森渡前豊中
GK 1
DF 2
DF 9
MF 1
MF 1
FW 1
FW 1
FW 1
川田内邉田部人平野村井
中土田渡前阿川大木石
10
7
10

【徳島市】
▽交代【市】野口（木村）佐野（前田）中田（大野）槇野（石井）【北】津川（森）野根（吉岡）

前半、左からのクロスに合わせシュートを放つ徳島市立の石井⑫＝徳島市球技場（山田旬撮影）

終盤 意地の決勝点

徳島市立

0―0のまま延長戦も意識し始めた後半36分、徳島市立は途中交代で出場した2人が膠着（こうちゃく）状態に風穴を開けた。

決勝点は「シュートしたりスペースに飛び込んだり、なんでもできる」と河野監督もお墨付きの万能型MF中田。交代から8分後、左クロスに難しいニアサイドから頭で合わせた。

「実はヘッドは苦手。頭で入れたのは初めてかも」と照れ笑い。2日の準決勝で決定機を外すなどし、挽回を誓っていただけに「きょうは貢献できて良かった」と飛び跳ねてガッツポーズした。

アシストも交代出場の佐野。クロスを上げる前、遠い側にも味方は見えたが「マークが離れていて確率が高いと思った」と冷静にニアを選択。「うちのアタッカーは質が高いので（必ず決めると）信じていた」と会心のワンプレーを振り返った。

夏の全国総体で目標に掲げた8強入りを達成。気が緩んだのか、帰県後のリーグ戦では失点が相次ぐなどした。転機は阿部主将らが中心になって自主的に開いた9月のミーティング。ベンチメンバーも含めて思いをぶつけ合い、チームのためにどう行動すべきか話し合った。「それから前向きな言葉が出るようになった」と佐野は言う。

3年連続の対決となった徳島北との決勝はまたしても1点差。阿部主将は「こういうぎりぎりの試合を乗り越えられたのは収穫」とうなずく。自信を胸に、再び高めた結束力で、今冬も全国での躍進を誓う。

（平尾貴宏）

後半36分、決勝ゴールを決めて喜ぶ徳島市立の中田（右から2人目）